

中央アジア食文化講座

『美味しい中央アジア ～シルクロードの食文化～』

主催：早稲田大学校友会調布稲門会語ろうアースカフェ

Facebook グループ「中央アジアの料理が好きじゃー！」

中央アジアとは、現在のウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタンの旧ソ連を構成していた共和国とその隣接する地域を指します。この地域はいわゆる「シルクロード」という東西交流のルートに当たり、様々な民族が行き交った地域です。1991年のソヴィエト連邦の崩壊から独立したこれらの国々を中心とする地域は、日本ではまだそれほど知られているとは言えません。



中央アジアの炊き込みご飯「プロフ」

今回の講座では、これらの地域がどのような背景を持った場所であるかということについて食文化を通じて探って

いこうと思います。地域理解というと、まずは政治や経済や観光事情が優先されがちですが、現地の人々が普段どのようなものを食べているかという情報はあまり伝わってきません。ですが、彼らが無気なく食べている料理の背景を探っていくと驚くほど奥深い歴史や文化が見えてきます。

シルクロードを通じた文明の十字路口は、食文化からもその痕跡を見ることができます。2012年に出版された『美味しい中央アジア 食と歴史の旅』（東洋書店）の内容を踏まえ、その後の現地調査の内容を交えて2回に渡って様々な食文化を紹介していきます。第1回、第2回講座では、中央アジアのお菓子をお土産としてお持ち帰り頂けます。また、第3回は中央アジア料理教室を開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

中央アジアのお菓子のお土産つき！

<講座日程>

第1回	2017年5月7日(日)14:00-16:00	シルクロードのオアシスの食文化 ～定住民の世界～
第2回	6月18日(日)14:00-16:00	草原の覇者の食文化 ～遊牧民の世界～
第3回	2017年7月予定	中央アジア料理教室

*1 開場は開始30分前です。

*2 第3回中央アジア料理教室は、日程が決まり次第、第1回第2回講座ご参加者にお知らせ致します。

場 所： 調布市文化会館たづくり 8階 映像シアター(定員100名 + 車椅子4台)

講 師： 先崎将弘

費 用： 各回1,000円/人(学生無料)

<問合せ・申込み先>

山田和子 (Tel/Fax) 042-488-0741

(Email) kazuko.yamada@jcom.home.ne.jp

<講師プロフィール>

先崎 将弘

中央アジア食文化研究家

日本ユーラシア協会常任理事・日本キルギス交流センター事務局長

ユーラシア研究所運営委員

Facebook グループ「中央アジアの料理が好きじゃー！」副会長



講師：中央アジア食文化研究家 先崎将弘

著書等

『美味しい中央アジア -食と歴史の旅』 東洋書店 (2012年)

「中央アジア -食の十字路」(『ユーラシア研究 第48号』 ユーラシア研究所+東洋書店 (2013年))

Web コラム『食から読み解く中央アジア』 KeyNoters (2016年から連載中)

http://keynoters.co.jp/category/author/senzaki_masahiro/

<講演会の開催に寄せて>

発足から2年となったFacebookグループ「中央アジアの料理が好きじゃー！」初の講演会を開催することになりました。発足当初は細々と始めたグループが現在では約1000人の会員に恵まれました。この地域に興味を持つ方の裾野の広さをあらためて感じているところです。

このたびは、かねてより国際文化交流イベントを実施している「語ろうアースカフェ」との共同開催によりこのような貴重な機会をいただきましたことをとても嬉しく思っています。

2012年に出版された『美味しい中央アジア -食と歴史の旅』(東洋書店)の執筆に取りかかったのは2011年です。当時からあまり知られていない中央アジアの世界ではどんなものが食べられているか、実は私自身もよく分からないものでした。だからこそ実際に現地に出かけ、食べてみることで少しだけ中央アジアの世界がどんな場所であるかということが見えてきたような気がします。現地で見たまざまな料理にはそれぞれが深い背景を持っています。それを探求することが中央アジアの地域理解に繋がることだと思っています。その一端をご紹介しますことで、教科書やガイドブックからはなかなか得られない中央アジアの魅力に気づいていただければと思います。



中央アジアの食卓

また、Facebookグループ「中央アジアの料理が好きじゃー！」の会長である山田有佐子による中央アジア料理教室も別途開催する予定です。この料理教室にも併せてご参加され、ご自身で実際に料理を作っていただくという体験を通して中央アジアについての理解を深め、いつかは実際に現地に足を運んでその美味しさを楽しんでいただければこれほど嬉しいことはありません。

まだまだ知られていないこの地域について、一人でも多くの方が興味を持っていただくことを願って止みません。